

オショロコマのモニタリング手法の検討について

1 イウベツ川で実施中の手法（北海道森林管理局：平成21年度～）



シマフクロウの餌資源として重要なオショロコマ（+ヤマメ）について、ダム改良等がどのような影響を与えるかを目的に、以下の手法で実施中。

- ①イウベツ川に6つの調査地点を設定し、1地点あたり約150mを調査区とし、投網等による捕獲調査
- ②調査項目
個体数、体長
- ③調査時期
夏季と秋季の2回

2 林野庁「森林生態系の気候変動影響モニタリング事業」での検討手法

※正式名：世界自然遺産地域の森林生態系における気候変動の影響モニタリング事業

(1) 事業目的等

- ・気候変動が世界自然遺産地域の森林生態系に与える影響をモニタリングするためのプログラムを作成すること
 - ①気候変動の影響を的確に把握できる指標は何か
 - ②その指標に関する調査手法や評価手法等の開発と試行
- ・事業期間は、平成21(2009)～24(2012)年度

(2) これまでの検討状況

過去の調査研究、知床遺産地域の「顕著な普遍的価値（OUV）」、温暖化に対する脆弱性等を考慮した結果、追加的気象観測を行いつつ植生垂直分布、泥炭湿原及び陸封型オショロコマを指標とすることとし、今年から以下のとおり試行することを検討中。

①現地調査河川等

- ・知床半島西側と東側でそれぞれ2～3河川ずつ選定
- ・選定河川の上・中・下流にて調査区を設定

②調査時期

- ・夏期

③調査項目

- ・オショロコマ個体数、大きさ、水温、水位、河川環境（溪畔林等）

この事業では、上記調査にあわせて、

- ・既往研究37河川（谷口ら(2000年)など）について、航空写真や地形図、既往資料を用い、河川の地形や溪畔林の状況、河川工作物の状況等をGIS上に整理
- ・この上記結果を用いて、平成11年(1999)から現在までの、水温及びオショロコマの変動を分析し、気象の変化や溪畔林、河川工作物の状況が、それらの変動に与える影響の考察

等を実施する予定。